

＜目的＞近年、革衣料に関する消費者からのクレームは、ドライクリーニングに起因するものが最も多くなっている。しかし、クリーニングによる衣料用革の性状変化について検討したものはあまり見当たらない。本報では繰り返しドライクリーニング試験を行ない、色調、光沢度、収縮率、力学的性質、官能検査、化学分析から性状の変化を検討した。

＜方法＞試料は市場で流通している豚革6点、緬羊革8点、牛革6点の合計20点を用いた。ドライクリーニングはウオッシュシリンダーを用い、洗浄液はIUF434に準拠して調製し、洗浄時間、温度は商業クリーニングに準じて、25℃で7分間行なった。乾燥は金網上に広げて55℃で45分間行ない、乾燥後、30分間空打ちした。これらの工程を5回繰り返した。色調は $L^*a^*b^*$ 表色系により $\Delta E^*$ を測定した。光沢度は75°鏡面光沢度を測定し、収縮率はJIS L 1042に準じて測定した。力学的性質はKES、FB計測システムを用いて測定し、官能検査は8名の皮革の専門家が行なった。化学分析はJIS K 6550にもとづき行なった。

＜結果＞1)クリーニングによる色調の変化はスエードやヌバックにおいて変化が著しく、銀付き革では著しい変化は認められなかった。2)光沢度は銀付革において著しい変化が認められ、初回のクリーニングによる変化が著しかった。3)収縮率はクリーニングにより大きくなる傾向が認められ、5回のクリーニングでは5%以上収縮するものも認められた。4)力学的特性では曲げ特性値がクリーニングにより著しく増大した。5)官能検査では、柔軟性、ふくらみ、ぬめり感はクリーニングによりやや減少し、腰・弾力性はやや大きくなる傾向が認められた。6)化学分析の結果、クリーニングにより脂肪分は著しく減少した。